

## 第2回東京グリーンビズアドバイザーボード 委員によるプレゼンテーションの要旨

委員名	要旨
<b>安藤 光義 氏</b> 東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授 【農業】	<ul style="list-style-type: none"><li>● 都市農家の相続税負担は莫大であり、農地が切り売りされている</li><li>● 相続税納税猶予制度の適用範囲を樹林地などにも拡大すべき</li><li>● 相続税の物納要件を緩和し、物納された農地や山林を自治体に長期貸与して福祉農園など新しい形の社会政策を展開すべき</li></ul>
<b>伊藤 香織 氏</b> 東京理科大学 創域理工学部教授 【都市づくり】	<ul style="list-style-type: none"><li>● 特に都心的なエリアにおいては、人との接点を積極的に捉えていかないと都市自体も、緑も維持できない</li><li>● 例えばニューヨークツリーマップのように、情報の見える化、市民参加により、自分事化していくべき</li></ul>
<b>小川 みふゆ 氏</b> 東京大学大学院 農学生命科学 研究科特任研究員 【植物生態】	<ul style="list-style-type: none"><li>● 植物が種子から大量に増えるというポテンシャルを活用して、再開発の際には地域の遺伝的多様性に配慮した苗木を育成すべき。</li><li>● 広場・公園等の防災空間には地域の樹木を使った防火帯が必要</li><li>● 生物の標本とデジタルデータ双方を管理する拠点を整備すべき</li><li>● 環境教育の拠点を整備しつつ、環境専門家を育成すべき</li></ul>
<b>島谷 幸宏 氏</b> 熊本県立大学特別教授 【グリーンインフラ】	<ul style="list-style-type: none"><li>● 緑を一つのインフラとして捉えて、その機能をしっかりと評価していくことが重要</li><li>● グリーンインフラの導入により、雨水と下水を分離すべき</li><li>● 善福寺川流域でグリーンインフラモデルを構築すべき（あめにわ、あめ路地、グリーン道路、エコトーン湿地など）</li></ul>
<b>吉高 まり 氏</b> 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 フェロー 【ESG投資】	<ul style="list-style-type: none"><li>● ESGファイナンスは世界的に拡大しており、環境保全につながるグリーンボンド等も発行</li><li>● 自然資本の変化が企業活動や金融機関の財務活動に与えるリスクが高まっており、その開示の仕組みを構築するためTNFDなども設立</li><li>● 国内外で金融機関等による自然資本分野への投融資等の動きが活性化</li></ul>